

巻 頭 言



青森県知事 三村 申吾

青森発 戦略的な地域国際化の推進

経済・文化・情報が国境を越えて自由に行き交うグローバル社会が進展する中で、我が国、特に、地方では少子化・高齢化が進んでいることから、国内外からの交流人口の拡大は、不可欠となっています。

私は、昨年8月に策定した「まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略」において、若い世代が安心して働き、子供を産み育てられる環境づくりなどの「自然減対策」と、生活の基盤となる仕事づくりや若者の地元定着などの「社会減対策」の両輪で取り組むこととしています。

こうした課題の克服に向けて、大きな鍵を握るのは、本年3月に開業した北海道新幹線です。これにより、新青森・新函館北斗間はこれまでの半分の約1時間で結ばれ、観光、ビジネス、医療、教育、文化など様々な分野で新たな可能性が生まれるものと期待しております。

青森県では、青森県と道南地域を一つの圏域と捉える「津軽海峡交流圏」の形成を目指しています。この津軽海峡交流圏を一つの旅行エリアとして、国内外からの新たな旅行需要を喚起する大きなチャンスと捉えています。私は、外国人旅行者を呼び入れるため、航空会社や鉄道会社などの交通機関と連携し、新幹線などの鉄道や航空機、海上交通に至るまで、陸・海・空のそれぞれの交通手段を組み合わせ、いわゆる「立体観光」の仕組みを作り、津軽海峡交流圏の周遊の旅を満喫できるような旅行商品の造成、販売に力を入れています。

さらに、物流面でも新たな取り組みを始めています。輸送時間の短縮と鮮度・品質を保持した付加価値の高い新たな物流の仕組みである「A!プレミアム」という輸送サービスです。これにより、国内大手宅配事業者と連携して、香港、上海、台湾等への最短翌日中の配達が可能となりました。

私は、これまで、新たな取り組みを行う際、国内はもちろん、韓国、台湾をはじめとする諸外国へも、自らが赴いて、各国自治体の代表者や現地の関係事業者と直接向き合い、とことん話し合いを続けることにより、お互いの人間関係を築き上げることに腐心してまいりました。その結果として、青森県唯一の海外定期航空路線である青森・ソウル線は就航から21年が経過しましたし、海外へのリンゴの輸出も累計3万5千トンを超えています。これらの実績の根底にあるのは、人と真心を持って向き合い、一つ一つこつこつと築き上げた信頼関係にあると思っております。そして、これが地方創生につながる国際交流の原点ではないかと考えています。

私は、平成24年度に観光国際戦略局を立ち上げ、交流人口の拡大と外貨獲得による青森県の振興に戦略的に取り組んでいます。

これからも、お互いの信頼関係をもとに、成長著しいアジアの目を青函圏に向けさせ、アジアの成長力を取り込む工夫と努力を行い、交流を活発化させていきます。私は、県民の皆様とともに青森県の強みをとことん生かし、課題をチャンスに変えて、「未来を変える挑戦」を続けていきます。